平成２６年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

<table>
<tr><td>指定期間</td><td>ふりがな</td><td colspan="3">りつめいかんうじちゅうがっこう・こうとうがっこう</td><td rowspan="2">②所在都道府県</td><td rowspan="2">京都府</td></tr>
<tr><td>26～30</td><td>①学校名</td><td colspan="3">立命館宇治中学校・高等学校</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③対象学科名</td><td colspan="5">④対象とする生徒数</td><td colspan="2">⑤学校全体の規模</td></tr>
<tr><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td><td>４年</td><td>計</td><td colspan="2" rowspan="2">中学校：537 名
高等学校：1022 名（IB コース 61 名、IM コース 182 名、一貫・普通・文科・理科コース　779 名）※文科コース・理科コースを平成 26 年度高校２年より開講。</td></tr>
<tr><td>IM コース</td><td>84</td><td>49</td><td>49</td><td></td><td>182</td></tr>
<tr><td>⑥研究開発構想名</td><td colspan="7">社会貢献とイノベーションの志で問題解決に挑む人材の育成</td></tr>
<tr><td>⑦研究開発の概要</td><td colspan="7">・日本文化再認識を土台に「宇治・京都・世界をつなぐグローバル・アントレプレナーシップ」を英語で追究する課題研究【IM】
・IBDP 方式による日本語 PBL 型科目「TOK」「歴史」「物理」開発【文科・理科】
・多様な海外派遣、トリリンガル・スポーツ留学導入【高・中・IM】
・国際高校生フォーラム、短長期留学生大規模受入【高・中】</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>⑧研究開発の内容等</td><td>⑧-1 全体</td><td>

(1) 目的・目標

① 構想の目的：IB・IM を中心にグローバル人材育成教育を高度化し、日本の中等・高等教育の質的転換に貢献する。
② グローバル・リーダー像：社会貢献とイノベーションの志を抱き、世界の人々と共同し、問題解決に挑戦する人材。
③ 達成目標：２割が海外大学へ進学する、４割が英語で授業を受ける、８割が CEFR B1 以上の英語力、10 割が社会貢献活動に参加する。（平成 30 年度卒業時の学年生徒比）

(2) 現状の分析と研究開発の仮説

本校は、確かな基礎学力と高度な問題解決型学力の養成、海外進学に道が開かれた中高大一貫教育を通じて社会に貢献する人材の育成をめざしてきた。近年、IB コース・IM コースの展開により、海外大学への合格者・進学者が増加し、成果が出始めている。今後は IB 教育が本校グローバル・リーダー育成の牽引役を果たすと同時に、「国内育ちの生徒がグローバル・リーダーとして成長する」ことを圧倒的な規模で実現するために、次の仮説に基づく研究開発を行う。
① 仮説１：IM コースでのグローバル課題をテーマとした英語による課題研究実施により、社会意識の深化、問題解決型学力とアカデミックな英語力の伸長が実現する。
② 仮説２：IBDP 「TOK」「歴史」「物理」を日本語授業化するための研究・実践により、生徒の知的関心・学習意欲の向上、教科学力と問題解決型学力の伸長が実現する。
③ 仮説３：IM コースの長期留学制度の改革、海外派遣企画の充実、海外大学研修や短期留学の拡充等、海外派遣プログラムの総合的充実により、より多くの生徒の挑戦、社会認識、外国語力、異文化理解力の向上が実現する。
④ 仮説４：国際高校生フォーラムでの海外高校生共同 PBL、短長期留学生の大規模受入等、海外受入プログラムの総合的充実により、全校生徒の日常的な異文化環境の保障や外国語学習への意欲喚起、IM コース課題研究との相乗効果による質的充実が実現する。

(3) 成果の普及

① SGH 校対象研究協議会（公開授業を含めた SGH フォーラム）の開催
② 国際高校生フォーラムにおける国内高校との連携
③ 立命館一貫教育部が推進する海外大学進学支援プラットフォームの普及
④ インターネットでの成果発信（英語版サイトの充実）

</td></tr>
</table>

	⑧ -2 課 題 研 究	**(1) 課題研究内容** 統一テーマ「宇治・京都・世界をつなぐグローバル・アントレプレナーシップの研究」の下、以下の３テーマから一つを選択し、研究に取り組む。 ①【政治・経済】世界の環境・社会問題を解決するソーシャル・ビジネスの研究 ②【経営】グローバル企業における CSR 戦略の研究 ③【文化】宇治・京都の文化を世界に発信するビジネスの研究 **(2)実施方法・検証評価（平成 26 年度の概要）** ① 科目名「Global Leadership Studies」（2 単位×3 年間）を 2 時間連続授業で設定。 平成 26 年度は、2 年後に開始する課題研究のための土台づくりと位置づけ、日本文化の再認識と、３つのテーマに関わるグローバルな社会課題の総合的・基礎的理解をめざす。 ② 第 1 ステージ「日本文化再発見講座」（1 年次 1 学期、全 10 講座） 「世界遺産（平等院）」「宇治茶」「日本の精神（武道）」をテーマに、文化人・研究者による講座を実施する。「世界の中の日本文化」を視点に、講演、質疑応答、討論を行い、講座内容・意見を毎回レポートにまとめさせる。 ③ 第 2 ステージ「グローバル・リーダーシップ講座」（1 年次 2 学期、全 10 講座） 「政治・経済」「経営」「文化」をテーマに、連携する大学・諸団体や本校グローバル人材育成支援会、および過去に講演いただいた関係者の協力で各講座を実施する。現代のグローバルな社会課題の基礎的理解を目標とする。授業方法は第 1 ステージと同様。 ④教材開発：参考文献の指定、映像・動画教材の作成、独自テキストの開発と共に、生きた教材と言える「人」のネットワークを蓄積し、キャリア形成につなげる。 ⑤検証評価：講座内容に関する理解、主体性、興味関心の視点から検証評価する。 ⑥連携先：立命館大学・立命館アジア太平洋大学、JICA、国際交流基金、本校支援企業
	⑧ -3 上 記 以 外	**(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価（平成 26 年度の概要）** ①IBDP の方法論を活かした PBL 型授業科目の研究開発：IB「TOK」「歴史」「物理」担当教員の授業見学、教材・教科内容・授業法・評価法の課題を明らかにし、その到達点を検証評価する。 ②多様な海外派遣および短長期留学派遣プログラムの研究開発：海外派遣は参加生徒枠を 50 人に拡充する。UBC ターム留学、スタンフォード大学夏季研修への参加を促進する。IM コースのトリリンガル留学は、韓国・タイ・スウェーデンへの受入協定締結をめざす。スポーツ留学は競技および派遣国の可能性を探る。各課題の到達点を検証評価する。 ③国際高校生フォーラムおよび短長期留学生受入プログラムの研究開発：フォーラムは、平成 27 年度開催に向けて教員・生徒実行委員会を立ち上げ、準備を開始する。交流実績のある Eton College（UK）、Applied Technology High School（UAE）にも参加を呼びかける。留学生大規模受入は、日本語授業を開講しながら、現在の提携校に呼びかけて行く。フォーラムの準備および留学生増加の進捗状況を検証評価する。 **(2) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法** ①IB 教育の質的充実と海外大学進学者の拡大 ②現地校型帰国生・外国人生徒の受入拡大 ③「グローバル・リーダーシップ講座」の開催 ④国際的な地域貢献での生徒の活躍促進（鳳凰杯、Rits Kids 等）
⑨その他特記事項		本校は IBDP 認定校として今春３期生を送り出すが、過去３年間のディプロマ取得率は 71％→80％→100％、ディプロマ平均点（45 点満点）は 30.1 点→32.5 点→33.3 点と前進を遂げている。また、それに連動し、海外大学進学者も 5 人→9 人→11 人と前進している。平成 24 年 3 月卒業生は、世界ランキング 50 位以内の海外大学（日本は東大のみ）にのべ 10 人が合格し、総計 48 大学のべ 56 人の海外大学合格を果たした。今後も IB コースが先陣を切りつつ、IM コース、文科・理科コースにおいてグローバル人材育成の仕組みを確立する。